

子ども育ちの家

「て・い・く」だよ!



アンケートに答えていただきました。

「て・い・く」の庭にある白梅のように真っ白い花が咲きました。最近、毎日のように小鳥やミツバチが集まり、春の訪れを知らせます。12月にいただいたさくら草も赤や白の小さな花が咲き誇り、陽春の日差しにまぶしく輝いています。



白梅 さくら草

子どもたちも「て・い・く」にすっかり慣れ、懇談会で言われたお母さんの「やっと居場所が見つかりました」のご感想が思い浮びます。

りょういく懇談会を開催しました。「て・い・く」

梅の便りが待ち遠しい2月17日(土)、第2回目のりょういく懇談会を開催しました。当日は保護者といっしょに訪れた子どもたちも、春のやわらかな日差しを受け、屋内外で楽しく時間を過ごしました。講師は前回に続き尾道幸子先生にお願いしました。“先生のお話を心待ちにしていました”と言われる保護者の方からは、日頃のお悩みや思いをたくさん伺うことができました。また、先生のアドバイスは、子どもや保護者の思いを優しく包み込み、張り詰めた緊張から、ふっと力の抜けるような温かいお話で、とても充実した懇談会になりました。

ご家族の愛情が子どもたちを育てます。(尾道先生)

自己紹介の中で、“最近、姉が障がいのある妹のことを人前で話さなくなりしました。”というお話がありました。尾道先生からは、「心配しなくても大丈夫です。子どもさんたちは、ご家族のことをよく見ていますし、皆んなに愛情を注げば、きちんと育ちます。」と答えられました。その後、他の保護者からは“一番下の弟に障がいがありますが、二人の兄はいずれも障がいのある人に関わる仕事に就きました、と励ましのお話もありました。

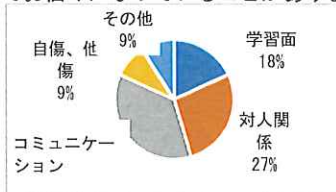
今回は、参加者のご質問に先生から答えていただき、その内容をとおして、フリーに発言していただきました。限られた時間でしたが、参加された皆様にはご満足していただけた懇談会になったと思います。



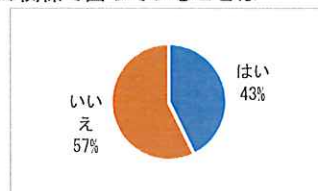
【創作活動】1月から2月にかけて、段ボールを利用した創作活動に取り組みました。子どもたちは、ハサミやガムテープなどを器用に使って思い思いの作品を作りました。初めから大きさや題材を伝えなかったのが最後までできるかなと心配しましたが、始まると時間が経つのを忘れるほど熱中して取り組みました。



子どもさんのことでお悩みになっていることがあります。しつらお答えください。



口幼・保育園や学校との関係で困っていることはありませんか。



【自由記述から】

- ・今回も参加でき良かったです。ありがとうございました。
 - ・少人数での懇談会は距離も話も近くて大変良いです。もっと機会が欲しいです。
 - ・久しぶりに尾道先生のお話を聞いて良かったです。又、お会いしたいです。
 - ・皆さんのお話を聞いて、又こういう場があることに嬉しく思いました。思わず力が湧いてきました。
 - ・今日もたくさんのヒントをいただきました。実践してみます。参加して良かったです。
 - ・参加させていただきありがとうございます。子どもの変化を見逃さないように向かい合っていきたいと思えます。
- ※次回は5月中旬を予定しています。講師の先生についてお尋ねしましたところ、多数の保護者が尾道幸子先生を希望されました。また、先生との個別面談にはお二人の方が申し込まれました。

【ステップアップ】

2回目の懇談会にも地元高橋地区から、川上自治会長、竹崎区長様が参加され、“地元としても何らかのお手伝いできれば”と大変、心強いお言葉をいただきました。厚生労働省のガイドラインにもありますが「て・い・く」にとって地元高橋地区は、子どもたちの学ぶ場であり、地域と直接、触れ合う機会を提供してくれるところです。そのためには地域のコミュニティとしても、今後、活動の輪を上げていくことが大切だと思っています。「て・い・く」を利用する子どもたちは、学習面やコミュニケーション等でつまづいているだけではありません。なかには社会的障壁を幼いながらも感じとっている子どもさんもいます。しかし、皆必死に前に進もうとしている姿垣間見ることができます。先に述べたガイドラインの理念には、子どもたちの置かれている状況から大きく4つの項目について、事業所としての役割が明確化してあります。いずれも「て・い・く」の目標と重ね合わせながらプログラムを充実させていきたいと考えています。(春野)